

第5回狛江市基本計画策定第二分科会会議録

- 1 日 時 令和元年8月8日(木) 午後7時～9時20分
- 2 場 所 狛江市防災センター3階 303会議室
- 3 出席者 委員長 杉浦 浩 副委員長 五十嵐 太一
委 員 五十嵐 秀司 委 員 成井 篤
委 員 清水 満 委 員 橋本 研
委 員 平山 達郎
事務局 池田企画調整担当主任 佐々木企画調整担当主任
- 4 欠席者 副委員長 富永 和身 副委員長 馬場 健司
委 員 後藤 千尋
- 5 議 題 1. 施策の方向性について
(3 活気にあふれ、にぎわいのあるまち)

2. その他
- 6 会議概要

- 議題1 施策の現状と課題について
(3 活気にあふれ、にぎわいのあるまち)

～事務局より説明～

委員長 それでは、これより議論を開始する。

五十嵐秀委員 指標はこれから庁内で決定することだが、指標の数値だけを追い求めてしまうと、それだけで目標を達成した気になってしまうので、そうならないようにしていただきたい。

委員長 目指すまちの姿、指標、施策の方向性がそれぞれ関連して、指標がこの基本計画の進行管理をする際にわかりやすくなっているかどうかという議論かと思うが、指標の議論を庁内で少し活発にやっていただいて、なるべく早めにイメージを分科会にお示しいただきたいと思う。

五十嵐秀委員 民間企業の場合は、最終的に利益というわかりやすい指標があるが、行政の場合はなかなかそうはいかないため、これという指標を立てにくいのだろうと思うが、それでも今委員長が言ったように取り組んでいただきたいと思う。

委員長 商業空間の充実といった内容はどこで触れられているのか。

事務局 ③「商工業」の施策の現状と課題において、「市民に対して魅力的な商業

空間・充実した商品を提供できていない状況にあります。」という文言を入れさせていただいた。加えて、施策の方向性で、「商工会や商店会と連携し、商店、商品、サービスの充実を図り」という文言を記載している。なお、直接的な内容としては、7「自然を大切にし、快適に暮らせるまち」の⑤「市街地整備」で触れていく予定である。

委員長 商業の活性化については、行政が主導していく必要があるように感じる。次回の分科会でも言及したいと考えているが、③「商工業」でも可能であれば内容を盛り込んでいただきたいと思う。

五十嵐秀委員 狛江駅南口の再開発について、市では問題意識を持っているのか。また、現状を教えていただきたい。

事務局 狛江駅南口の再開発については以前から話としてはあがっており、議会の一般質問等でも取り上げられている内容ではある。しかしながら、狛江市にノウハウがないこと、多額の予算が必要となること、地権者との交渉の問題等様々な事情があって、現状では具体的に話が進んでいない。

委員長 これは一個人としての意見なのだが、エコルマを建設して商業テナントを入れたところで、市として一段落ついてしまったのではないか。本当は小田急線の連続立体交差の完成の際に、駅周辺の開発に着手すべきだったのだろうが、そこで仕掛けを遅らせた。今後を見据えたときに、改めてそういったことにもチャレンジしていかないといけないのではないかと思う。

加えて、弁財天池特別緑地保全地区について、駅の魅力を向上するためにあの緑地をもっと活用するという取組があっても良いのではないか。そういった取組により、駅全体のポテンシャルを高め、更に商業価値を高めるというサイクルをつくる努力を、積極的にやらないといけないのではないかと思う。

五十嵐秀委員 狛江駅であれば、えきまえ広場や弁財天池特別緑地保全地区といったネットワークを活用して事業を展開していけば良いと思うので、そういったことがイメージできるような表現にしていきたい。

清水委員 「コンテンツ」という文言が①「狛江の魅力」に何箇所か記載されているが、具体的な仕込みはあるのか。

事務局 具体的な案はなく、これから検討していくこととなる。

清水委員 基本計画の策定に当たっては、これから検討するのではなく、すでに仕掛けが用意してあるというのが理想だと思う。

また、①「狛江の魅力」に施策の方向性が3つあるが、それが平行に配置してあって、見る人が見ると現行計画と同じだと思うのではないか。発掘・創出、活用、発信という方向性があるが、それが連動していくと魅力が更に深まるという仕組みにした方が良いと思う。

委員長 基本計画なので、直接的な表現はできないかもしれないが、具体的な案は持っておいた方が良いと思う。また、今回は3「活気にあふれ、にぎわいのあるまち」についての議論ということで、クローズした議論になってしまうが、本来は他の分野、他の施策にどう波及するかというのも見えた方が良いと思う。

五十嵐秀委員 例えば絵手紙事業を実施していくにしても、花火大会や史跡等他の魅力と連動させて、一つの物語として展開していった方が良いと思う。もちろん、他の分科会で所管している分野も含めて。

橋本委員 ①「狛江の魅力」について、行政が魅力を発掘して、つくって、活用して、発信していくといった文章になっているように見える。市民とともに作る、主役は市民であるという内容が盛り込まれていると良いと思う。

委員長 行政計画ではあるが、魅力というのは、市民の方が盛り上がらないと発掘・創出できないと思うので、そういったことが見える文章としていただきたい。

事務局 基本構想の中でも「ともに作る」という表現が使われており、行政が主役ではなくて、市民が主役で行政が協力するという体制が望ましいと思うので、そういったことが見える文章とさせていただきます。

平山委員 先程清水委員からの意見で「コンテンツ」という表現が多く使われているという話があったが、本来「コンテンツ」という言葉は、情報やWEB、映像の中身としての意味を持っているため、表現を改めた方が良いのではないかと思います。

五十嵐秀委員 確かに、「コンテンツ」という言葉を用いると、誤解を招く可能性があるがあるので、改めた方が良いと思う。

事務局 表現を改めさせていただきます。

清水委員 確認なのだが、基本計画は「です・ます調」とするののか。

事務局 基本構想が「です・ます調」になっているので、整合性という意味ではこちらの方が良いと思うが、現行の基本計画は「である調」であるため、絶対に「です・ます調」でなければいけないということではない。

清水委員 個人的は感覚なのだが、現状と課題については「です・ます調」で優しく説明しても良いと思うが、まちの姿及び施策の方向性に関しては、物事をつくり上げていくという意味を示す意味でも「である調」でも良いと思う。

事務局 基本構想を策定するときに「です・ます調」を選んだ理由としては、わかりやすさと文章のやわらかさを優先させていただいたためである。

清水委員 各委員、事務局が一生懸命考えているのに、「です・ます調」では、市としての意思が伝わりにくくなるのではないかと危惧している。

事務局 確かに、施策の方向性については意思や力強さが欲しいところであるため、

「です・ます調」の中でそれを表現するようにしていきたい。

委員 長 そういった意味でも、ある程度現時点で事業を想定できていないと、言い切れないところが出てきてしまうのだと思う。下流まで全部見通して、それで上流の整備をするという試行錯誤を何回かやらないといけない。もしそういったことを行う時間がないのであれば、事務局でしっかり下流まで見通した上で議論・検討をしていただきたいと思う。

清水委員 ゴシック体と明朝体の違いとしては、諸説あるのだが、明朝体はいわゆる書き文字、で長い文章のときには用いられることが多い。一方、ゴシック体は短い文章に用いられることが多い。なぜなら、文字に力があるからである。こういった知識も、策定に当たっては是非とも参考にしていただければと思う。

平山委員 ①「狛江の魅力」の目指すまちの姿について、文化・芸術についての記載があった方が良いのではないか。また、市民が愛着・誇りを持つことも重要ではあるが、活気とにぎわいにあふれた新しい狛江に生まれ変わりますといった、少し大げさなくらいの表現でも良いのではないかと思った。

事務局 別の分野で、文化・芸術について触れる箇所があるため、文化・芸術だけではなく、イベントや絵手紙等全てを内包した形にしていきたい。

橋本委員 小さい市ならではの、「市民同士」や「顔と顔が見える」といったキーワードを盛り込んでいただきたい。

平山委員 人々の交流が生まれるような狛江市になる、という表現ができれば良いのではないか。

橋本委員 目指すまちの姿で、「来訪者や定住者が」という表現があるが、この部分も、近年話題に上がっている「関係人口」や「交流人口」といった言葉に置き換えても良いのではないか。

清水委員 一般市民であれば、市への思いは、愛着・誇りという表現よりも、その一段階下の、「いいね！」くらいが適当なのかもしれない。市民というのは、そんなに高いレベルよりも意外とフラットのところで賛成をしてくれると思うので、もう少し違う表現ができればと思う。

委員 長 役所的な表現というものがあるのであろうが、目指すまちの姿というのは、もう少しかみ砕いた市民レベルの表現にしても良いと思うので、事務局で改めて議論をしていただきたい。特に、①「狛江の魅力」の目指すまちの姿は非常に重要であると思うので、ここについては十分に議論をいただくようお願いする。

橋本委員 施策の方向性について、「埋もれている新たな魅力を発掘する」とあるが、もう少し具体的に、どうやって魅力を発掘していくのか、といったところを記載していただきたい。

五十嵐秀委員 実際問題として、発掘・創出できそうな魅力はあるのか。

事務局 現時点では、具体的なものはない。しかしながら、新しいものを発掘していくという意気込みは、基本計画に入れていかねばいけないと思っている。

委員長 基本計画はもちろん市民の方にお示しするものだが、職員にとっても、基本計画の策定の際は、普段からやりたいと思っていることを実現に向けた道筋に乗せる絶好のチャンスであると思う。ずっと温めていた腹案のようなものを若手職員は誰も1つや2つ持っていると思うので、そういうものを全庁的に聞いてみても良いかもしれない。

事務局 狛江市には、係長級及び課長補佐級の職員で構成された未来戦略会議という会議体があり、その未来戦略会議がボトムアップ方式で導き出した事業案をまとめた報告書が先日完成した。

本報告書については、次回の分科会で資料としてお示ししたいと考えている。

委員長 他の施策についてはいかがか。

五十嵐秀委員 正直言って、狛江市の商業の現状というのは非常に厳しいものがある。商店街というものがどんどん衰退化しており、大型店に消費者が流れているのが現状である。本来なら、①「狛江の魅力」に商業も入れていただきたいのだが、実際にはどうすれば良いのかというところで、商工会を含め皆が悩んでいる。

先ほど狛江駅南口の再開発という話もあったが、猪方、駒井、西野川、東野川という地区は狛江駅から離れており、和泉多摩川商店街を除いて、その辺には本当に商店がない。その地域の住民は、大型店や市外で買い物をしているのが現状である。

委員長 商業空間を充実させるためのタイミングとしては、例えば都市計画道路等の整備の際に、住居専用地域だったものを近隣商業地域に変更したり、地区計画をかけて、容積率や建ぺい率を増やすといったことが考えられる。

都市建設部には、道路事業と一体的に地区計画をかけていかないと、狛江は変わっていかないという話はしているが、地区計画をかけるとなると、住民説明をしなければならない、住民合意をとらなければならないといったハードルが多数あることから、後手を踏んでしまっているのが現状である。

例えば、水道道路を拡幅するのであれば、周辺の用途を緩和して、商業施設を建設できるようにする必要があると思う。

五十嵐太委員 水道道路の周辺にも以前は商店街があったのだが、現在はなくなってしまった。

五十嵐秀委員 狛江市だけではなく、全国的にシャッター街のようなものが点在するようになってきているが、狛江市の商業が衰退してきているというのは、何か狛江市特有の要因のようなものはあるのか。

五十嵐秀委員 やはり大型店がいたるところに建設されたというのが大きな要因だと考えられる。

委員長 大型店に車で行って、1週間分の食料等を買に行くというのが生活パターンになっている人が多いのであろう。これは全国的にも同様ではないか。そういった意味で、将来の商業のあり方のようなものを、市としてどのように捉えているのか。

事務局 ③「商工業」については、狛江市商業振興プランと整合がとれるよう文章をまとめているが、大型店とどのように競っていくのか、そして共存していくのかという視点については、同プランにも盛り込まれていないところである。

五十嵐秀委員 ここに書いてあることは現行計画とそれほど変わっていない。要するに、具体的な施策が見つからない状況なのである。

何とか商店街を活性化していこう、個店のサービスをもっと充実して大型店に対抗していこうという考えはあるのだが、結果には結びついていないのが現状である。

五十嵐秀委員 以前商工会で商品券を発行していたことがあったと思うが、現在もやっているのか。

事務局 今年度は、10月1日からの消費税率の引き上げへの対応として、国から補助金をいただくことを前提に、プレミアム付商品券というものを発行している。しかしながら、これは対象者が限定されており、また、平成31年度に限った事業であるため、今後も継続していくものではない。

橋本委員 大型店で買わずに、個店で買うようにするための動機づけをしなければいけないと思う。個店の魅力は一体何だと考えたとき、やはり人なのだろうと思う。例えば、個店が集まるバザーのようなイベントを開催し、そこで市民との交流が生まれれば、あの人が売っているから買いに行こうというきっかけができていくのではないか。

平山委員 課題は、駐輪場や駐車場がないという点にもあると思う。駐輪場や駐車場がないので、近場の人しか来てくれないのだと思う。

五十嵐太委員 もちろんそれもあるが、商店街自体に訴求力がないのが問題である。個店で見ると、魅力的なお店もたくさんある。しかしながら、それが商店街に集中するのではなく、市の広範囲に点在してしまっているため、1つの商店街としての魅力は薄くなってしまっている。

五十嵐秀委員 先程橋本委員がおっしゃったように、えきまえ広場でイベントを開催して、魅力的なお店・商品があれば市民も集まると思うので、それをきっかけとした流れを作る必要がある。えきまえ広場は、もと使い道があると思うので、そういった仕掛けをしていただきたい。土・日曜日にイベントを開催してい

るのか。

事務局 毎週イベントを開催しているわけではないが、これまで市役所市民ひろばで行っていたイベントを、えきまえ広場で開催する等、可能な限り活用するように努めている。

五十嵐太委員 環境を整えないと、このままでは難しい。

杉浦委員長 例えば、市街地整備によって、商店街をまとめるということができれば良いが。

五十嵐秀委員 各個店は、自分で地所をお持ちの方が多いのか。

五十嵐太委員 ほとんどがそうである。

五十嵐秀委員 そうすると、テナントに入るというわけにもいかない。

委員長 後継者はそれなりにいるのか。

五十嵐太委員 後継者も少ないのではないか。

成井委員 その土地や店舗を貸すという考えはあるのか。

五十嵐太委員 貸すということはもちろん考えられるが、新しい借主も入らないのが現状である。

五十嵐秀委員 都市計画によって、どこかに店舗を集約するという事は可能なのか。

委員長 区部でも古い商店街を駅周辺に集約するという事例がいくつかある。あるいは、現在の土地でマンションスタイルに建て替えをして、上階を貸して下階で商売を続けるという方法もある。

橋本委員 現在、空家対策を市でも力を入れて取り組んでいると思うが、空店舗を市民が集まれるコミュニティスペースにするといった取組ができれば良いと思う。

委員長 既存商店街を解体して再開発をするのか、あるいは既存の商店街への支援を継続するのか、スタンスを明確にしないといけない。

五十嵐秀委員 5年後、10年後のプランなので、抜本的な取組も視野に入れていかないと、夢が持てないような気がするので、そういった意思が読み取れるような文言を入れていただきたい。

橋本委員 方向性3「創業支援」で、「知識やノウハウを積極的に提供する」と記載してあるが、創業者が一番困るのは場所だと思うので、空き店舗情報をより積極的に提供して、可能であればマッチングを行う等できれば良いと思う。

五十嵐秀委員 空店舗情報は発信しているのか。

事務局 市ではないが、東京都がサイトを持っている。

事務局 都市建設部で空家対策を行っており、その中で、空家・空店舗の活用については、将来的に行っていく可能性はある。

五十嵐秀委員 そういった事業を支援する業者もあると思うので、そことうまく連携して、ノウハウを活用できれば、事業として機能するのではないか。

委員 長 これまでの議論を踏まえて、空店舗の活用については追記をお願いする。
また、既存商店街の活性化も文言として入れていくべきだと思うので、改めて検討していただきたい。

いずれにせよ、商工業の分野については、もっと力を入れないといけないと思った。まずは、大型店や市外への消費流出の抑制、その次に駅周辺の商業空間の整備が必要だと思う。

成井委員 市として、創業に係る助成や空店舗等の情報発信をやっていくという意気込みを、強く発信しても良いのではないかな。

委員 長 現在、市外や大型店で買い物している市民が多いというのは事実であると思うので、その方々をもう一度呼び戻すというぐらいの気構えを持たないと、商業の活性化はできないと思う。

橋本委員 例えば、山梨県小菅村で作っている野菜を使ったお店を、狛江でオープンしてもらうのはどうか。市民が創業するのはもちろん良いことだが、市外の人を誘致するという視点も必要ではないか。

五十嵐秀委員 ②「地域コミュニティ・市民交流」とも連動して、市民交流やイベントでの繋がりだけではなく、狛江市民が山梨県小菅村で創業するといった連携もできれば良いと思う。

委員 長 これまで、市では企業や商店等を誘致したりしたことはあるか。

事務局 本格的な企業誘致というのはおそらくやっていない。

委員 長 今橋本委員からあった話は、一つの方策としてあり得るのではないかな。

橋本委員 個人で難しいのであれば、山梨県小菅村のアンテナショップが狛江にあっても良いのではないかな。

議題2 その他

委員 長 その他特に意見等なければ、第5回狛江市基本計画策定第二分科会を終了する。